

次世代の産業の創り手を育てるために

－マイスター・ハイスクールでの経験から－

桑 名 真 人

((一社)北海道農産協会てん菜部長)

次世代の産業の創り手を育てるために

ーマイスター・ハイスクールでの経験からー

- 自己紹介

- マイスター・ハイスクールについて



学校に入ってみて気づいたこと

- 国際交流／英語教育の事例

- ICTの活用事例

- 環境への影響、環境からの影響を考える

- 地域・企業との連携

- まとめ

桑 名 真 人（クワナマヒト）

1962年 4 月21日紋別市生まれ

北海道北見北斗高校から北海道大学教養部理Ⅱ系を経て
農学部農業経済学科卒

大学の途中で、化学系から社会科学の勉強に変更。

バブルの上げ潮の時代から、就職して10年経って、バブルの崩壊を見て、その後の時代を生きて来ました。

（趣味） 並コリドラス（熱帯魚）、ヤドカリ飼育、
オートバイで農山漁村を走ること

職歴


時期	勤務先	主な業務	世の中の動き
1985年	北海道に採用（農業経済職） 釧路支庁勤務を経て、道農政部勤務	<ul style="list-style-type: none">課内の予算経理、給与事務等農業系の資金貸付、協同組合の検査、補助金事務等関係団体や大学との調査研究事業	<ul style="list-style-type: none">プラザ合意冷戦終結
1994年	農林水産省勤務（北海道対策室）	<ul style="list-style-type: none">北海道庁との連絡調整調査研究、検討事業等	<ul style="list-style-type: none">バブル崩壊
1996年	再び、北海道農政部勤務の後、留萌支庁勤務を経て、三度、農政部勤務	<ul style="list-style-type: none">道庁版農業白書の編纂、資料室の管理、道産農産物の消費拡大の取組み、農業技術系職員の人事管理等	<ul style="list-style-type: none">WTO発足米国同時多発テロBSE国内初確認
2006年	再び、 農林水産省勤務 を経て、道庁経済部、農政部勤務	<ul style="list-style-type: none">県立農業大学校等の支援文部科学省との農業教育の窓口	<ul style="list-style-type: none">米国でiPhone登場震災
2012年	根室振興局 地域政策部長	<ul style="list-style-type: none">総務、税務、地域政策（若手職員との交流）	<ul style="list-style-type: none">EPA（経済連携協定）の進展
2018年	北海道立総合研究機構 花・野菜技術センター	<ul style="list-style-type: none">花・野菜の研究業務の管理担い手・技術者の研修事業の管理	<ul style="list-style-type: none">まち・ひと・しごと創生
2020年	再び、農政部勤務 技術支援担当局長	<ul style="list-style-type: none">試験研究、農業改良普及センター、病虫害防除所の管理担い手育成対策	<ul style="list-style-type: none">新型コロナウイルスのまん延
2022年	北海道静内農業高等学校副校長 同校にて定年退職、再任用	<ul style="list-style-type: none">マイスター・ハイスクールの事業管理	
2024年	北海道農産協会てん菜部長	<ul style="list-style-type: none">てん菜取引に係る立会業務の推進てん菜の試験研究の推進砂糖の正しい理解の推進 糖	

子どもたちや若い皆さんの健やかな成長のため、

砂糖の正しい理解につきましてもよろしくお願いします！



砂糖に甘くない時代だから。

 天下糖一プロジェクト


DOWN



マイスター・ハイスクールへのきっかけ（１）

農政部各位のおすすめ

教育庁各位の丁寧な対応

文部科学省の公募資料

マイスター・ハイスクールへのきっかけ（２）

1. 背景・趣旨



職業系の専門高校は、我が国の産業振興を担う高校段階での職業人を育成し、これまで我が国の高度成長・工業化に大きく貢献してきた。

その一方、高等学校教育の事実上の全入時代、高等教育進学が多様化といった、社会の構造変化に伴い、専門高校における進路も多様になってきている中、個別の専門高校では特色・魅力ある取組も見られる半面、社会的ミッションである我が国の産業振興に資する人材育成というマクロ政策の観点からはその役割が不明瞭になっており、産業政策・地方創生に向けて産業人材育成機関としての専門高校の在り方を抜本的に充実すべきという指摘も見られる。

人口減少の一層の進展、農業の「6次産業化」という言葉に表れるような従来の産業分類を超えた産業動態のボーダレス化の加速化等を踏まえると、デジタルトランスフォーメーション（DX）・成長産業化を進めることのできる人材育成を担う専門高校の抜本改革は、我が国全体、全国各地の持続可能成長にとって喫緊の課題であり、とりわけコロナ禍の中、世界全体が第4次産業革命に向けたIoT等のDXを進めていく上で、産業政策と高校教育の結節点である専門高校において、持続可能な産業成長・企業変革力の基盤となる人材供給を担う革新の緊急性は高まる一方である。

中央教育審議会においても、こうした背景を踏まえ、待ったなしの課題として、専門高校を含め高等学校の在り方を議論しているところであり、文部科学省としても、教育課程の開発・実施・改革に至るまで、企業・産業界と教育界が一体化し、成長産業化を図る企業の変動的取組と高校の地域職業人育成改革の同期化に向け、70年の職業系専門高校の歴史上、前例のない、産業界と一体となった職業系の専門高校教育課程・体制を一気呵成に進め、企業のダイナミックケイパビリティの確保・成長産業化を図るとともに、その人材育成機能を持続可能化する令和時代の人材育成システムを新たに構築していくものである。

本事業はこうした考え方の下、地域の職業人育成を担う専門高校における教育改革と成長産業化に向けた企業改革を同期化して進めていくという国家的な社会要請に基づき、国としてモデル事業を行うことで、全国展開に向けた各種コスト低減を図り、各地域での成功事例の創出を目指すものである。

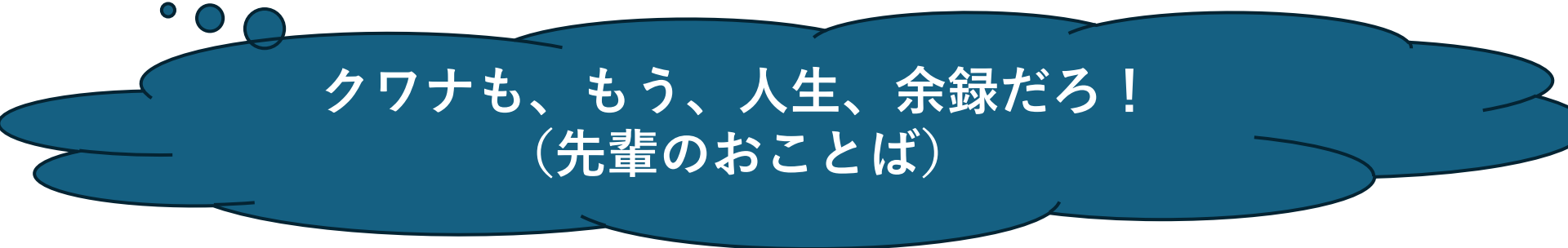
・・・世界全体が第4次産業革命に向けた・・・DXを進めていく上で、
産業政策と高校教育の結節点である専門高校において、
持続可能な産業成長・企業変革力の基盤となる人材供給を担う革新の緊急性
は高まる・・・

マイスター・ハイスクールへのきっかけ（3）


…世界全体が第4次産業革命に向けた…DXを進めていく上で、
産業政策と高校教育の結節点である専門高校において、
持続可能な産業成長・企業変革力の基盤となる人材供給を担う革新の緊急性
は高まる…



このフレーズにほだされ・・・



クワナも、もう、人生、余録だろ！
（先輩のおことば）



もうすこし、がんばってみる覚悟

マイスター・ハイスクール について

マイスター・ハイスクールについて（１）

マイスター・ハイスクール（次世代地域産業人材育成刷新事業）

令和３年度予算額（案） 2.1億円
（新規）



背景 ・ 課題

- 第４次産業革命の進展、デジタルトランスフォーメーション（ＤＸ）、六次産業化等、産業構造・仕事の内容は急速かつ絶えず革新。
- 更に新型コロナウイルス感染症の感染拡大の中、DX, IoTの進展の加速度がさらに高まり、こうした革新の流れは一層急激に。
- こうした中、地域産業の人材育成の核となる専門高校の社会的要請として、産業構造・仕事の内容の絶え間ない変化に即応・同期化した職業人育成が求められる。

→アフターコロナ社会で成長産業化を図る産業界が期待する専門高校の職業人育成システムを抜本的に改革

事業内容：成長産業化に向けた革新を図る産業界と専門高校が一体・同期化し、第４次産業革命・地域の持続的な成長を牽引するための、絶えず革新し続ける最先端の職業人育成システムの構築

産業界と一体となった専門高校の職業人材育成の抜本的改革

未来志向の産業界が中核となり、地元自治体等とともに、地域における人材育成と成長産業化のエコシステムの確立

【主な取組】

- 産業界他関係者一体となったカリキュラム刷新・実践（コース、学科改編等）
- マイスターハイスクールCEO（仮称）を企業等から指定し学校の管理職としてマネジメント
- 企業技術者を教員として採用（マイスターハイスクール版クロスアポイントメント）
- 企業等での授業・実習を多数実施、企業等の施設・設備の共同利用
- 専攻科設置や高専化、大学連携等の一貫教育課程導入等の抜本的な改革

第４次産業革命を担う職業人育成



専門高校



マイスター・
ハイスクール
CEO

産業界

事業の成果等を通じて、第４次産業革命を牽引する地域産業人材育成エコシステムのモデルを示すことにより、各地域が取組む際の各種コスト低減を図ることが可能となり、全国各地で地域特性を踏まえた取組を加速化させ、次世代地域産業人材育成の全国的な社会最適を目指す

対象 校種

国公立の高等学校

委託先

学校設置者、地方公共団体、民間企業、経済団体、協同組合等

箇所数 単価 期間

15箇所 1,300万円/箇所 3年

委託 対象経費

カリキュラム開発等に必要な経費
（人件費、設備備品費、実習費等） 1

マイスター・ハイスクールについて（２）

文部科学省が示したこと

【主な取組】

- 産業界他関係者一体となったカリキュラム刷新・実践（コース、学科改編等）
- マイスターハイスクールCEO（仮称）を企業等から指定し学校の管理職としてマネジメント
- 企業技術者を教員として採用（マイスターハイスクール版クロスアポイントメント）
- 企業等での授業・実習を多数実施、企業等の施設・設備の共同利用
- 専攻科設置や高専化、大学連携等の一貫教育課程導入等の抜本的な改革

現場で実際にやった、やったこと

- カリキュラムの刷新・実践
 - ・ 外部講師の講義や外部での実習、視察等を織り込み。
 - ・ 学科・コースが異なる全ての生徒が、食品・園芸・馬事・乳牛の全ての農場実習に取り組み。
 - ・ 探究型学習への紐付け（教科横断・課題研究・国際理解等）。
- 教育関係者じゃないヒトが職員室の管理職に加わる。
- 大学ではおなじみの産業実務家教員が高校にて加わる。
- 企業等の施設・設備を使わせていただく。
- . . .

マイスター・ハイスクールについて（３）



○産業実務家教員

獣医師 中西真吾氏

- ・ 日本軽種馬協会（**JBBA**） 内 静
種馬場・場長、軽種馬トレーナー
ニングセンター長を経て、静
内農業高校の産業実務家教員
- ・ 馬事コースの実習指導とともに
プロジェクト学習の指導
- ・ 馬術部の技術指導
- ・ **JRA**（中央競馬会）、**JBBA**、
HBA（日高軽種馬農協）等と
の連絡調整 等

マイスター・ハイスクールについて（４）

マイスター・ハイスクールビジョン

北海道静内農業高校における人材育成計画の概要

- ア 高度熟練技能者による指導や企業等と連携した商品開発や軽種馬生産など、地域や産業界と連携した実践的・体験的な学習活動の推進及び学校設定科目の設定
- イ プロジェクト学習を中核とした教科等横断的な地域課題探究型の学習活動の推進
- ウ デュアルシステムを活用した地域の企業等と連携したキャリア教育の充実
- エ 地域や小・中学校と連携した教育活動など、異年齢集団による活動の推進
- オ オンライン授業や実験施設を利用した高度な実験・実習など大学等との連携・協働
- カ 農業経営のグローバル化等に対応するためのeコマースの活用や英語教育の充実



マイスター・ハイスクールについて（５）

事例：国分北海道と連携した食品科学科の取組



国分北海道株式会社

国分北海道株式会社

食品卸売業としてメーカー商品を取り扱うとともに「K&K」をはじめとする国分ブランド商品の開発、販売を行っている。

国分北海道との連携内容

商品開発におけるマーケティングの理論、国分北海道における商品開発の取組、食品表示、物流センター視察等



商品開発に関する講義



物流施設の視察



諏訪社長による講演

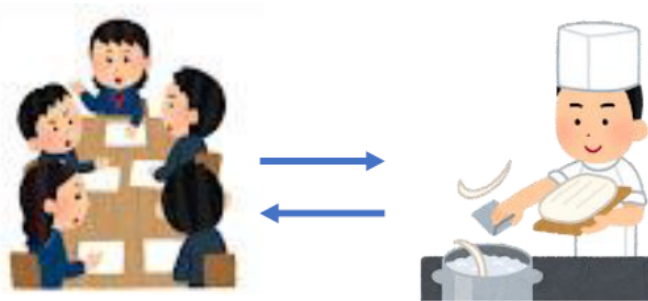
マイスター・ハイスクールについて（６）

事例：食品科学科の取組の変化

「商品開発」における学びの変化（食品科学科）

MH取組み前

- ・限られた研究班が学びを体験
- ・原材料生産に関する研究班もあり地域資源の活用は低迷気味

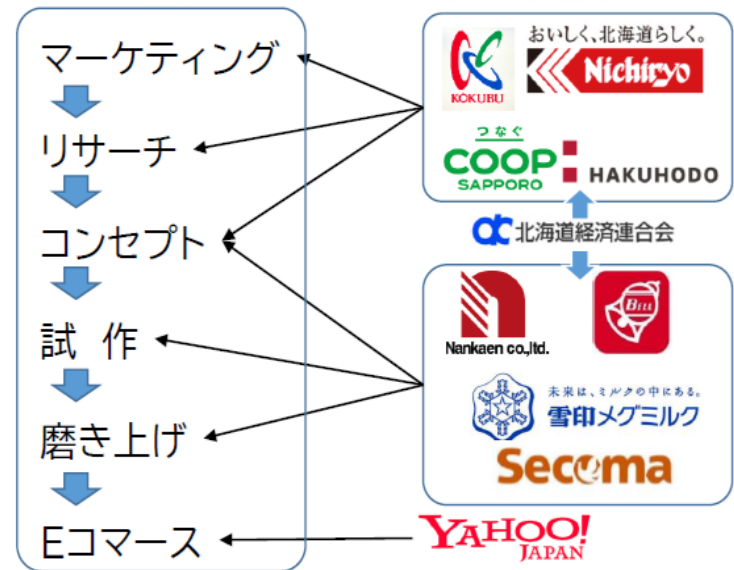


町内の商工事業者と連携
試作品の評価等学習範囲は限定的

MH取組み後

- ・食品に関する4つの研究班を開設
- ・授業や研究班単位で学科の全生徒が学びを体験
- ・様々な考え方や技法を学び地域資源の活用が活性化

産業界と一体化した一連の学習活動



- 企業等の高度な知識や技術に触れ、生徒の意欲が高まる「主体的な学び」を実現
- 地域資源を活用した商品開発により新たな価値を創造し、「対話的・で深い学び」を実現

学校の中に入って
気づいたこと

学校の外と中（対比）

※表の記載は個人の感想です。

学校の外（例：役所組織）

例えば報告

文書を起こし、詳細・丁寧な再現

例えば会議

次第、出席者名簿を用意して、事後報告も丁寧なまとめ

例えば事故、事件

ラインが長かったり、関係部署が複数になると報告、意思決定が遅延しがち

体制、取組の冗長性

毎年、柔軟に組織、人事、予算、事務事業等を見直し
一年間の間にも、実務内容の変更、調整等多数

学校の中

口頭での報告、迅速に判断まで時間をかけない

会議中での飲み込み重視
原則、関係者全員参加

校長、教頭の指示のもと、その場にいる教職員で役割分担で素早い対応

学校行事、授業による時間的な制約
間口、学科による組織、人事の制約
経常的な支出による予算制約

（マイスター・ハイスクールでの気がかり）
職場の体制・文化の違いを相互に吸収できるのか？

学校（職員室）で知ったことば（1）

心理的
安全性

自己
肯定感

メタ
認知

一般の職場で
あまり使うことのない
「ことば」であるが、

職業人として、
能力開発につなげるため、

「チャレンジ」を

働きかける上でも
大切なポイント
ではないか

職場の安全にも
大切なことだダワ

コミュニケーション、
連携強化にも
大切なことダワ

学校（職員室）で知ったことば（２）

そして、「探究型学習」
「主体的・対話的で深い学び」



学習指導要領解説
公民編 です。

…予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら…どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え、…

国際交流と英語教育の事例

英語教育の充実・国際交流の展開（１）

日仏農業教育連携について

2022年12月14日（水）農林水産省の日仏農業教育連携フランス訪問プロジェクトに本校生徒3名が選ばれました。2023年2月7日～11日までの間、フランス第二の都市リヨンを訪れ、現地の農業高校訪問やボジョレー地区のワイナリー・農場見学、ホームステイなどを通じて日仏両国で農業を学ぶ生徒同士の交流を深め、国際感覚を備えた人材の育成を目指すプログラムです。フランス訪問中はリヨン美食館において日本食の普及イベントと食育セミナーも予定されています。訪問する3名の皆さんには日仏のさらなる架け橋として活躍してくれることを期待しています。Bon voyage!!

2023年2月11日（土）フランス訪問プロジェクトから帰国しました。日仏両国の農業と食の文化の交流を行い、ホームステイを通して友情も育むことができました。

On Wednesday, December 14, 2022, three of our students were selected by the Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries of Japan to participate in the France-Japan Agricultural Education Cooperation Project. The program aims to deepen exchanges between students studying agriculture in France and Japan through visits to local agricultural high schools, wineries and farms in the Beaujolais region, and homestays, and to develop internationally-minded human resources. During their visit to France, they are also scheduled to participate in a Japanese food promotion event and a nutrition education seminar at the Lyon Gastronomy Museum. We hope that the three students will play an active role as a bridge between Japan and France.

On Saturday, February 11, 2023, we returned from our project to visit France. We were able to exchange agricultural and food culture between Japan and France, and also nurtured friendships through homestays.



学校での取組のこれまでの成果はこちらから

英語教育の充実・国際交流の展開（２）

1 マイスター・ハイスクール以前

日本政府（農林水産省）と仏国政府の
農業教育に関するプロジェクト

- 両国の学校の交流促進
→ そのためのマッチング

しかし、
取組は停滞

農林水産省
が協力する
下地

2 マイスター・ハイスクール1年目（R3年度）

- ① 英語科の先生からの発議
短期留学生の受入に向けた企画書の作成
- ② 管理職の手元へ・管理職からさらにその先へ

北海道農業公社
（担い手施策の担当へ）

町のロータリークラブへ

仏学生を受け入れるための資金
に目途

農業系公益法人
の公的資金

奉仕団体からの
助成

英語教育の充実・国際交流の展開（３）

3 マイスター・ハイスクール２年目（R4年度）

日本政府（農林水産省）の支援
～ 両国の学校の橋渡し

受入準備の加速

農林水産省の
仲介

ホストファミリーの協力

町内のホスト
ファミリーの協力

《視察先の協力》
競馬関係施設、大学研究農場（農場長・農業科）

町内の競馬関係
団体の協力

※ 日頃から連絡できる環境づくりの心がけ

大学研究農場の
協力

教職員、地域、そして、生徒の歓待

- ① 生徒会主催のオール英語の歓迎式
- ② 生徒も留学生も協力して、学校祭を成功に。

英語教育の充実・国際交流の展開（４）

生徒・地域の歓待（実際の歓待の様子）

フランス週間(6月27日～7月3日)



英語教育の充実・国際交流の展開（５）

4 マイスター・ハイスクール2年目（R4 2月）

日本政府（農林水産省）の事業

生徒・教員5名
が渡仏



5 マイスター・ハイスクール3年目（R5）

生徒が主体的に海外へ
～ 公募型の事業の活用

米国

米国

豪州

農林水産省の協力

公募団体の協力



次ページ参照

6 マイスター・ハイスクール終了後（R6）

海外学校との交流による
異文化理解の取組を充実



次々ページ参照

英語教育の充実・国際交流の展開（6）

生徒が次々海外へ ～ 公募型の事業の活用

国際交流 (生徒が主体となった海外渡航)

AIG高校生
外交官渡米プログラム
(AIG損害保険株式会社)
生産科学科2年生1名



ケンタッキー大学
語学学校の短期留学
(新ひだか町姉妹都市交流委員会)
生産科学科3年生1名
引率教員1名



畜産ティーン
育成プロジェクト
(国際農業者交流協会)
食品科学科3年生1名



畜産ティーン育成
プロジェクトの様子は、
こちらから
『モーモーファイターズ』



英語教育の充実・国際交流の展開（7）

6 マイスター・ハイスクール終了後（R6）

北海道静内農業高等学校

海外学校との交流による 異文化理解の取組を充実

ログイン

ホーム

学校紹介 ▾

学校生活 ▾

学科 ▾

事務室 ▾

各種通信物

学外の方 ▾

国際交流 Int'l Exchange

メニュー

ホーム

学校紹介 >

学校生活 >

学科 >

事務室 >

各種通信物

学外の方 >

国際交流 Int'l Exchange

その他公開情報

静内農業の国際交流 - International Exchange

本校では英語の授業で、海外学校との交流を通して異文化理解の教育を推進しています。

留学生受け入れ等国際交流事業に関する担当は英語科です。お問い合わせは本校教頭までお願いいたします。

Our English teacher is the coordinator of the international exchange program, including student exchanges. For inquiries, please contact the Vice Principal by sending an e-mail to shizunainougyou-z1@hokkaido-c.ed.jp

We have partner schools overseas in the United States, France and Australia.

Through online exchange with these schools, students enjoy various opportunities to learn different cultures, as well as foreign language.

海外交流校 Partner schools; as of 2024

アメリカ合衆国（1校）October 2021～

LaFayette High School, Kentucky, USA

フランス共和国（1校）November 2021～

Lycée Les Vergers, Dol-de-Bretagne, France

オーストラリア（1校）April 2022～

James Ruse Agricultural High School, NSW, Australia



I C T （情報通信技術） 活用の事例

Information and Communications Technology

3Dプリンタ／スキャナ活用のプロジェクト（1）



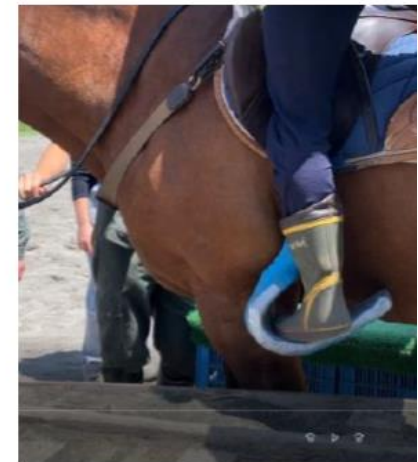
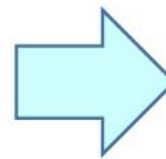
障害のある子や小さな子との
乗馬による交流



落馬のリスクから
乗馬の安心感へ



ICT技術を活用し
た舌長鑑の改良

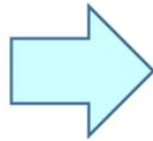


日本古来の舌長鑑

3Dプリンタ／スキャナ活用のプロジェクト（2）



ICT技術を活用した
舌長鐙の改良



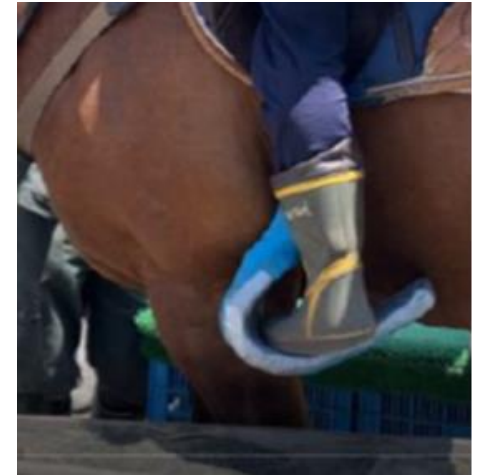
日本古来の舌長鐙



↑3Dプリンタによる制作状況



←3Dスキャンした画像



町の郷土資料館
にあったあぶみを3Dスキャン

データ転送

道総研工業試験場
にて3Dプリント

町教委（学芸員）
の協力

町教委（学芸員）と
工業試験場の連携

道総研（研究員）
の協力

3Dプリンタ／スキャナの活用（3）

町教委（学芸員）と
道総研工業試験場の連携

町の郷土資料館にあった
安全性の高いあぶみ



リアルなICT活用の学習

- ① 3Dスキャナを身近なツールに
- ② データ転送のリアル（町→札幌）
- ③ 3Dプリンタ活用のリアル

成果の視点

- ① 社会課題の解決に
新技術を活かす
（社会実装のリアル）
- ② 想定しがたい連携の現実
（みんなで動いてみるもの）

**環境への影響、
環境からの影響を考える**

環境への影響、環境からの影響を見据えた取組（１）

●基本的な考え

国が提唱する「みどりの食料システム戦略」に沿って、本校生徒が、地域の園芸作物をモデルとし、現代の農業が抱える課題について解決を目指す。

●具体的な取組

- ① 脱炭素社会の実現
→ バイオ炭の農地施用（**土壌への炭素貯留**）
- ② 環境負荷の低減
→ バイオ炭施用による**土壌の物理性の改善**。物理性の改善に伴う品質や収量性の改善
- ③ 労働時間の縮減
→ **環境モニタリングシステム**を活用した**省力化・精神的ストレスの低減**。

●対象作物

ミニトマト、デルフィニウム

環境への影響、環境からの影響を見据えた取組（２）



ハウスのほ場に炭を施用

生徒自ら炭を製造
(いろいろな原料を試行錯誤)



環境への影響、環境からの影響を見据えた取組（3）

普及センターだより

2022年1月

未来 ひだか

みらくる

日高農業改良普及センター



地域振興作物の栽培技術や経営について学ぶ生徒の皆さん

静内農業高校で取り組む「マイスター・ハイスクール事業」の支援

地域産業の持続的発展をけん引できる人材の確保・育成を目指して、令和3年度から静内農業高校で、「マイスター・ハイスクール事業」がスタートしました。この事業では静内農業高校と関係機関が連携して、高度かつ実践的な内容の研修を行っていきます。

北海道農政部・振興局の支援

- 出前授業
- 地域農業者のもとでの授業
- GAP取得の指導・助言

- 将来に向けた農業高校の教材
- 農業高校のプロジェクト学習の充実
- 農業高校と地域の関係機関とのフラットに話す場の設定

環境への影響、環境からの影響を見据えた取組（４）

（将来に向けた農業高校の教材）

ＳＤＧｓなど将来課題を理解し行動するための教材

⇒ 生徒が活躍するであろう将来の世界を見すえる視点での取組

（農業高校のプロジェクト学習の充実）

本格的な課題化・実用化にさきがけ先行する試験

⇒ 地域課題に連動していけるようなプロジェクト研究
生徒が地域課題に貢献するというモチベーション

（農業高校と関係機関とフラットに話す場の設定）

地域の技術的な課題に、農業高校（生徒と先生）が参画するプラットフォームの形成

⇒ 農業高校が持続的に地域に関わる仕組みづくり

環境への影響、環境からの影響を見据えた取組（５）

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

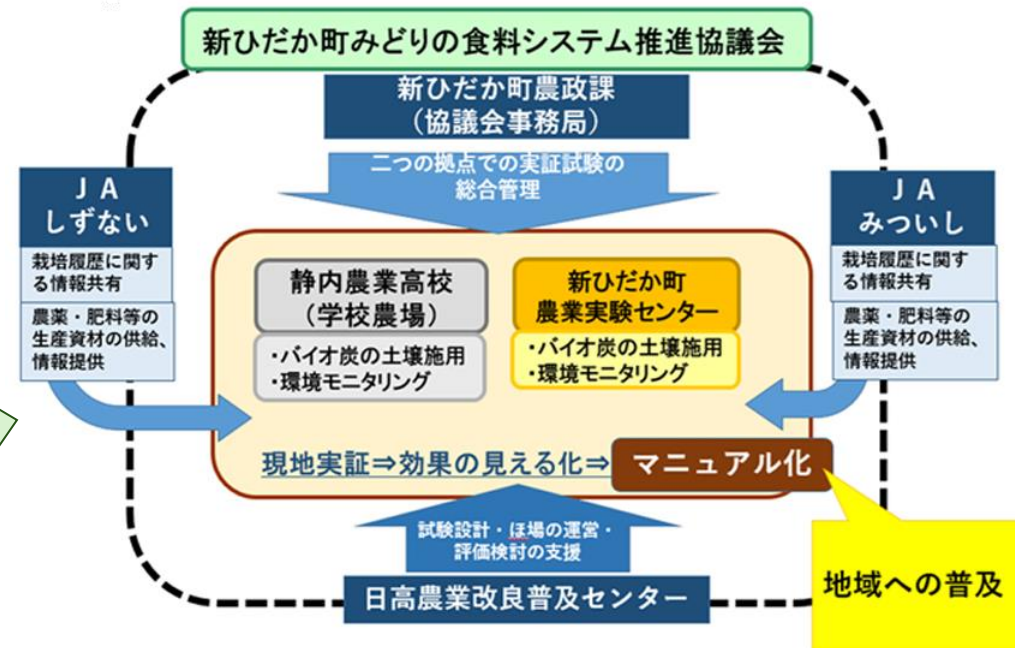


環境への影響、環境からの影響を見据えた取組（６）

（農業高校と関係機関とフラットに話す場の設定）

地域の技術的な課題に、農業高校（生徒と先生）が参画するプラットフォームの形成

⇒ 農業高校が持続的に地域に関わる仕組みづくり



取組時期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月



北海道立総合研究機構林産試験場
研究職員によるバイオ炭に関する研修会



デルフィニウム施設内施肥及び
バイオ炭施用
（新ひだか町農業実験センター）



土壌分析用サンプルづくり
（北海道静内農業高等学校）

地球温暖化による暑熱対策などが必要となる中で、新ひだか町農業実験センターとともに地域課題の解決に高校生が参画

環境への影響、環境からの影響を見据えた取組（7）



園芸コースの生徒のみんなと
町農業実験センターの岡田さん



新ひだか町とのみどり戦略
の取組事例はこちらから

活用事例から考えること

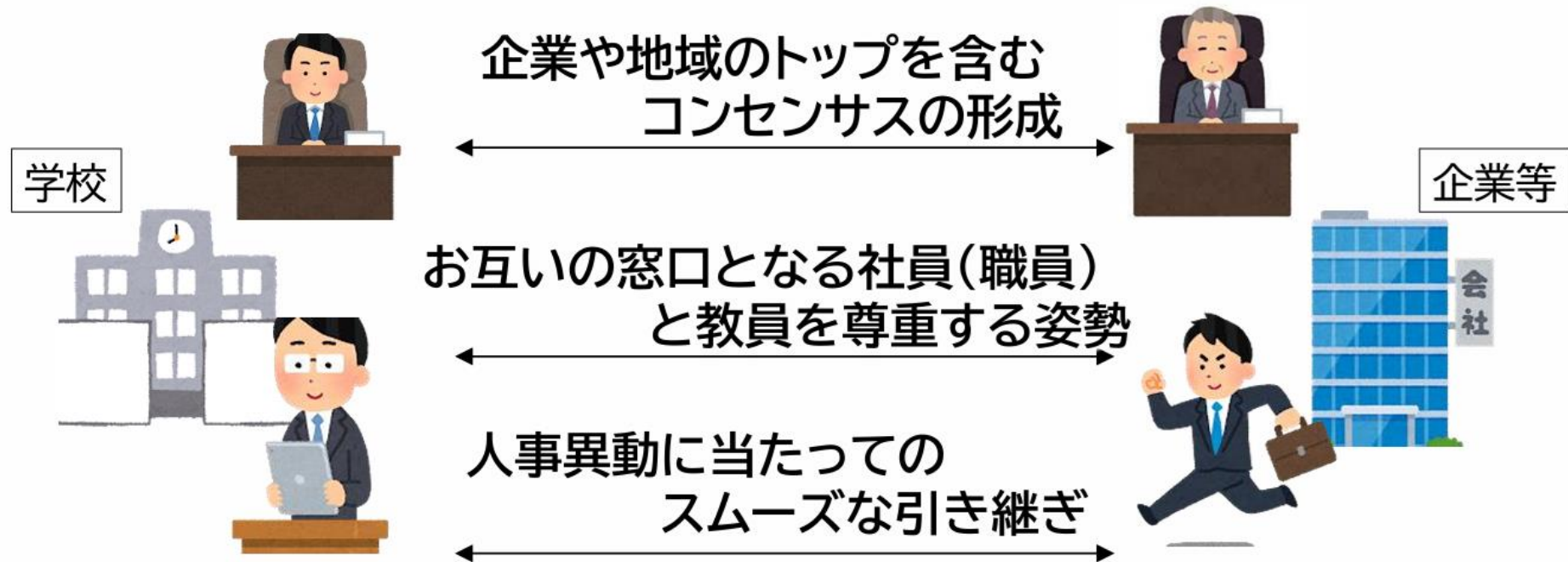
プロジェクトをきっかけに
学校の内外で
チカラを合わせることの
重要性

地域・企業との連携

地域・企業が学校を支援するにあたって留意すべきこと（１）

－ 文部科学省の報告会でお示したもの －

学校と企業等で持ち続けるべきこと（心構え）

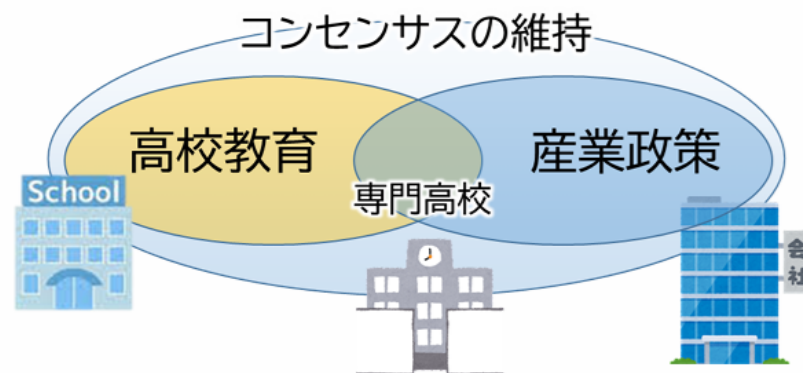
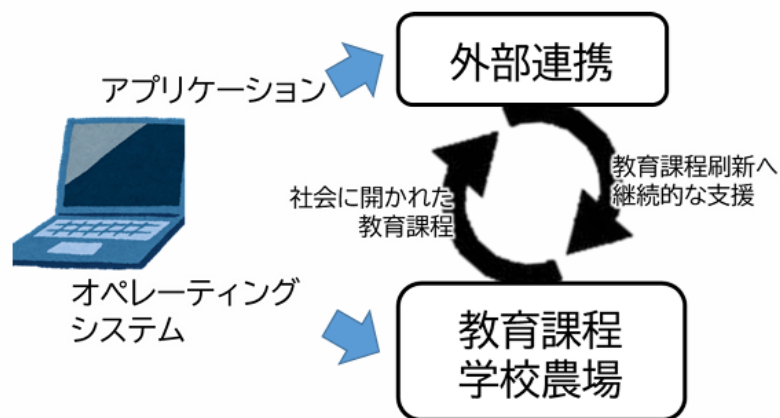


地域・企業が学校を支援するにあたって留意すべきこと（２）

－ 文部科学省の報告会でお示したのもの －

企業・地域とともに理解したいこと

- 外部連携は教育課程や教育システム・学校農場運営の上に立脚
- 教育課程の刷新は社会の進展とともに弛まず必要であり、そのために持続的な企業・地域の支援の必要性
- マイスター・ハイスクール事業で形成された人材育成に係るコンセンサスが将来にわたって維持される必要性



・・・産業政策と高等教育の結節点である専門高校・・・

（マイスター・ハイスクール事業公募資料より）

新しい取組をはじめ、拡げ、持続する支援

学校教職員のチカラ

校長、教頭等

- 計画する力
- 対外的に調整力

教職員

- 計画を自らの実践につなげる力
- 教科に織り込む力
- 対外的な調整力

事業の
進展

- スムースな引き継ぎ
- シンプルな受け止め

教職員

- それまでの評価、見直す力
- 対外的な調整力
(ネットワークを引き継ぐ力)

校長、教頭等

- 学校基盤を安定する力
- 対外的な調整力
(ネットワークを維持、調整する力)

外部の方々に求められること

① 体系的に外部講師の授業、実習、視察等の組み立て

② 授業内容のとりまとめ、学校カリキュラムとの整合性の確保

- 組織内の合意形成
- シンプルな受け止め

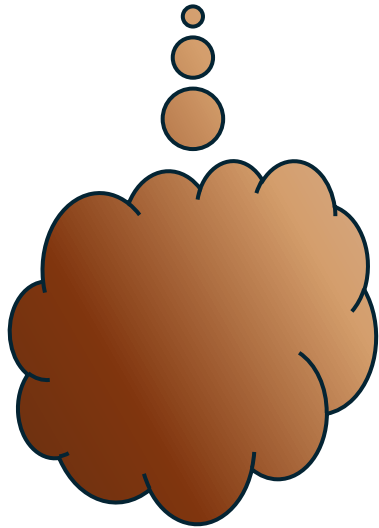
③ 将来の産業の創り手を、学校・地域とともに育成していこうという組織内のコンセンサスとその情熱の持続

④ 生徒、保護者に見える形で、協働して創り上げたカリキュラムと進路指導が連動すること

持続する支援 エコシステム

短視眼的な
エコノミー

息長く、30年後、40年後の
担い手育成をめざす
エコロジーのシステムへ



仮のまとめ

専門高校でのプロジェクトを
きっかけに
生徒の意欲を尊重しつつ
学校と企業、地域とが
同じ土俵に乗ること

最後に

ぼくが農業行政にて

心がけてきたこと

自治体農政の可能性

わが国においては、国の農政はあっても、地方自治体の農政は存在しえない、自治体は制度や財政の面から国によってがんじがらめにしばられて、自治の実態をなすような独自性のある農政は展開できず、そこに農政らしきものがあっても、それは国の農政の単なる代行に過ぎない、ということはいまなお、農政学者、農業経営学者の常識、あるいは通念となっている。

・・・農業諸施策では、法制的にも、財政的にも国に権限が集中していること、したがって自治体は国で企画された農政の単なるパイプ、あるいは末端のエージェントでしかあり得ないということである。

・・・しかしながら、その集権的な国の農政、それが作る自治体の農政環境でもって、自治体が行う農政のすべてを決定しつつしているものであろうか。厳しい環境のなかにあっても、自治体がそこで主体性を発揮し、それが国の農政のパイプであるとしても、パイプとしての自主性を持つ余地はまったくないのであろうか。

・・・その厳しい環境のなかにあっても、自治体レベルの農政担当者が主体的に対応しうる余地が少なからずあって、地域における農政事象をみる場合にも、環境とその主体とのからみあいとしてみることの必要性を強調したい。

・・・国の農政の単なるパイプ、単なる代行機関に徹し、その域を出ないものから、それに抵抗し、上からの農政をその地域に適合するよう主体的に組み替えているものまで、そこでの対応の幅はきわめて大きい。しかも、その自治体レベルの対応の仕方によって、実はその地域農業の振興に大きな差が出てきていることも指摘しなければならない。

・・・成功事例でみられる市町村レベルでの対応の共通点は、・・・独自計画の樹立、指導の一元化、地域農業の組織化、地域農業マネジメントの確立という四つの機能である。・・・従来の農政は、・・・法律や省令をもって、あるいは補助金でもって、望まじからざるものを抑制し、望ましいものを助長する。特に、補助金では、物的な土地基盤整備や近代化施設の導入というハードな局面での整備に重点がおかれている。これに対して、さきの四つの機能は、制度によって決められるものでも、補助金によって促されるものでもない。逆にいって、いくら制度を作ったとしても、いくら補助金を積んだとしても、これが実現できるものでもない。

その四つの機能は、地域に在住する市町村レベルの農政担当者が、地域農業者とフェイス・ツー・フェイスの関係のなかで、そのリーダーシップを発揮することによってはじめて実現する・・・。

(「農業経営と自治体農政」高橋正郎、昭和60年)

国からの指導・指示も尊重しなければならないが、
フェイス・ツー・フェイスの関係の中で
地域が柔軟に生き抜く可能性があるのではないか

まとめ

拙速なスキルアップではなく
変化を続ける環境の中で
柔軟に生き抜く
ヒトづくりに
みんなで取り組むこと
ではないか？

そして、私たちにできること


いろいろな制約があるけれども、
自分にできる関わり方で、

「きっかけ」を大切にして、

学校、企業、地域みんなで、
がんばりましょう。

これからの
産業、地域の創り手である
若い人たちが

豊かに生きていく「可能性を拡げる」ために。

A photograph showing two men and a brown horse in a grassy field under a blue sky with white clouds. The man on the left is wearing a dark blue polo shirt and glasses, and the man on the right is wearing a dark blue jacket with red trim. They are both looking at the horse, which is facing them. The background features a line of trees and a fence.

将来は目高だけではなく
北海道、日本、世界の農業の
イノベーターとなるよう努力していきます。
(マイスター・ハイスクール事業成果発表会にて、生徒会長 小清水陽人)